

# 2018年3月期 決算説明資料

---

2018年5月29日

文化シヤッター株式会社

# 目次

## P1 2018年3月期の実績について

- P2 事業環境
- P3 業績
- P4 売上高および営業利益の増減要因
- P5 セグメント別売上高および営業利益
- P6 売上高の用途別セグメント別分析

## P7 2019年3月期の見通しについて

- P8 事業環境予想
- P9 業績見通し
- P10 売上高および営業利益の増減要因
- P11 セグメント別状況

## P12 重点施策の進捗状況について

- P13 基幹事業の拡大 シャッター事業の強化
- P14 基幹事業の拡大 ドア・パーティション事業の強化
- P15 注力事業の強化 エコ&防災事業の強化
- P16 注力事業の強化 メンテナンス事業の強化
- P17 注力事業の強化 ロングライフ事業の強化
- P18 注力事業の強化 海外事業の強化

## P19 トピックス

- P20 トピックス 事業投資について
- P21 トピックス 新商品紹介

## P22 参考資料

- P23 文化シャッターグループ概要
- P24 文化シャッターグループの会社構成と海外事業展開
- P25 連結貸借対照表
- P26 連結キャッシュフロー計算書
- P27 シャッター関連製品の状況（単体）  
（重量シャッター、軽量シャッター、窓シャッター）
- P28 建材関連製品の状況（単体）  
（ドア、パーティション、エクステリア）

# 2018年3月期の実績について

---

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	実績	伸率	実績	伸率	実績	伸率
新設住宅着工戸数 (万戸)	92.0	104.6%	97.4	105.8%	94.6	97.2%

非住宅着工床面積 (万㎡)	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	実績	伸率	実績	伸率	実績	伸率
工場 (万㎡)	885	114.7%	828	93.6%	919	110.9%
倉庫 (万㎡)	809	98.8%	865	106.9%	989	114.2%
医療・福祉 (万㎡)	692	75.7%	736	106.4%	625	84.9%
店舗 (万㎡)	605	84.7%	561	92.8%	553	98.5%
事務所 (万㎡)	612	99.0%	668	109.2%	668	99.9%

◆ 経済環境は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に景気は緩やかな回復基調が続いたが、欧米の政治的リスクやアジアにおける地政学的リスクの高まりなどにより、依然として先行き不透明な状況が続いた。

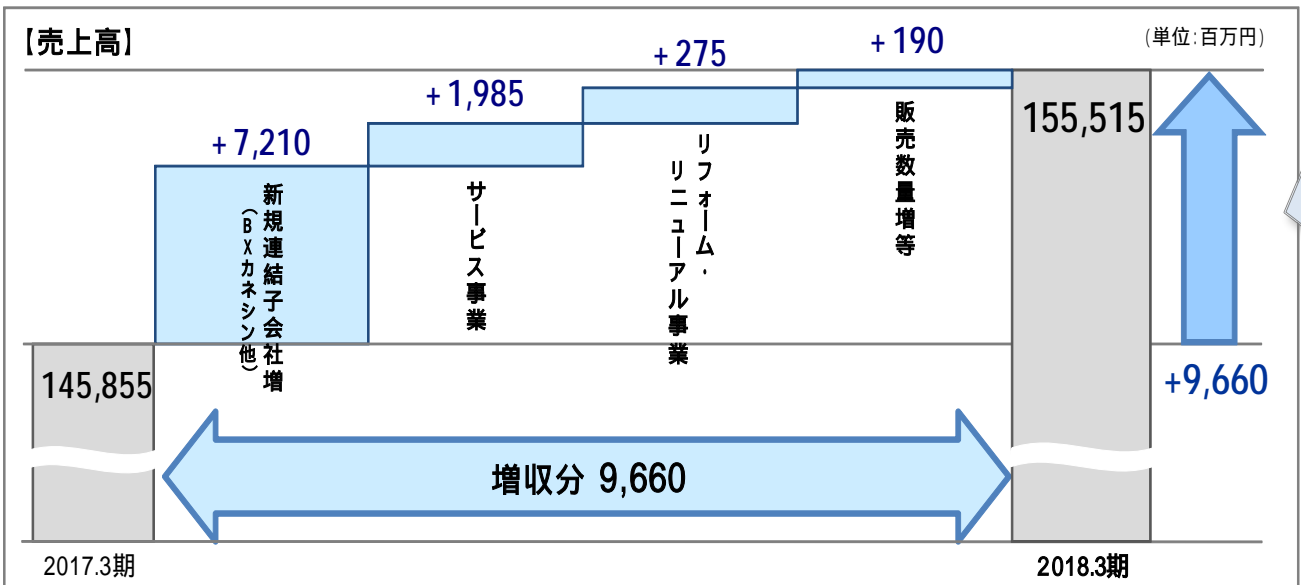
◆ 建築市場について、当グループの先行指標である新設住宅着工戸数は、前期比2.8%減の94万6,396戸で推移した。  
非住宅着工床面積(建築確認申請時点)は、医療・福祉、店舗、事務所向けが減少したものの、工場および倉庫向けが増加したことで、前期比3.9%増の5,331万㎡と、前年を上回った。

(単位:百万円)

	2017年3月期		2018年3月期				
	実績	売上比	11月予想	実績	売上比	前期比	予想比
売上高	145,855	100.0%	<b>156,500</b>	<b>155,515</b>	100.0%	106.6%	99.4%
売上原価	107,708	73.8%	<b>116,650</b>	<b>115,447</b>	74.2%	107.2%	99.0%
売上総利益	38,146	26.2%	<b>39,850</b>	<b>40,068</b>	25.8%	105.0%	100.5%
販売費及び一般管理費	30,866	21.2%	<b>33,000</b>	<b>33,266</b>	21.4%	107.8%	100.8%
営業利益	7,280	5.0%	<b>6,850</b>	<b>6,801</b>	4.4%	93.4%	99.3%
経常利益	8,463	5.8%	<b>7,400</b>	<b>7,681</b>	4.9%	90.8%	103.8%
当期純利益	5,967	4.1%	<b>3,400</b>	<b>3,195</b>	2.1%	53.5%	94.0%
1株当たり配当金	20円		<b>20円</b>	<b>20円</b>	-	-	-
設備投資額	8,098		<b>5,000</b>	<b>4,676</b>		57.7%	93.5%
減価償却費	2,954		<b>3,500</b>	<b>3,397</b>		115.0%	97.1%
期末 従業員 (人)	正社員	4,012	<b>4,120</b>	<b>4,478</b>		466	358
	臨時雇用者	1,056	<b>1,120</b>	<b>1,118</b>		62	2
	合計	5,068	<b>5,240</b>	<b>5,596</b>		528	356

- ◆ 「売上高」は、8期連続の増収、5期連続の過去最高。
- ◆ 「営業利益」は、人件費と減価償却費に加え、原材料価格と取付工事費等の増加に伴う売上原価率のアップと、買収関連費用の増加に伴う販売費及び一般管理費の増加により減益。「当期純利益」は、新販売管理システム構築に関わる固定資産除却損を、特別損失として計上したことで減益。
- ◆ 「設備投資額」約46億円の主な内訳は、
  - ・設備の合理化・更新他で約27億円
  - ・子会社の新工場建設と設備の更新で約10億円
  - ・ライフイン環境防災研究所の増築関連で約5億円
  - ・システム開発費用で約4億円
- ◆ 「1株当たり配当金」は20円。

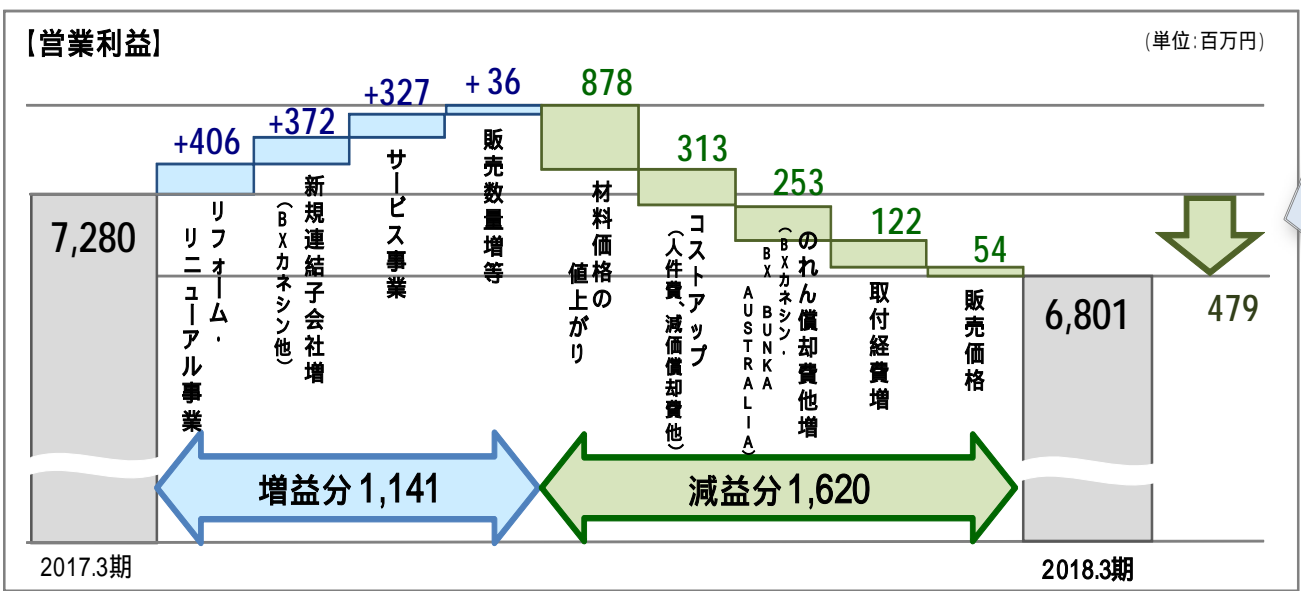
# 売上高および営業利益の増減要因



## ◆「売上高」の増減要因

増収要因は、「新規連結子会社の増加」、「サービス事業」、「リフォーム・リニューアル事業」、「販売数量の増加」が寄与。

トータルで9億6,000万円の「増収」。



## ◆「営業利益」の増減要因

増益要因は、「リフォーム・リニューアル事業」、「新規連結子会社の増加」、「サービス事業」などが寄与。

減益要因は、「材料価格の値上がり」、「コストアップとして、「要員と給与手当の増加による人件費および減価償却費の増加」、「のれん償却費他の増加」などが影響。

トータルで4億7,900万円の「減益」。

# セグメント別売上高および営業利益

(単位:百万円)

	2017年3月期		2018年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
シャッター関連製品事業	51,445 (52,600)	6,788 (7,550)	<b>51,922</b> (51,600)	<b>5,604</b> (5,120)
伸率	101.3%	90.0%	100.9%	82.6%
増減	656	753	477	1,184
建材関連製品事業	65,275 (65,300)	1,829 (2,830)	<b>71,892</b> (73,300)	<b>1,727</b> (2,000)
伸率	101.0%	53.8%	110.1%	94.4%
増減	616	1,572	6,617	102
サービス事業	17,726 (17,500)	1,958 (1,900)	<b>19,711</b> (19,500)	<b>2,285</b> (2,500)
伸率	107.7%	105.2%	111.2%	116.7%
増減	1,262	96	1,985	327
リフォーム事業	7,797 (8,200)	199 (100)	<b>8,072</b> (8,200)	<b>207</b> (150)
伸率	101.2%	-	103.5%	-
増減	91	82	275	406
その他事業	3,610 (3,400)	249 (220)	<b>3,916</b> (3,900)	<b>191</b> (280)
伸率	101.3%	104.6%	108.5%	76.8%
増減	47	10	306	57
配賦不能額	-	3,346 (3,400)	-	3,214 (3,200)
合計	145,855 (147,000)	7,280 (9,000)	<b>155,515</b> (156,500)	<b>6,801</b> (6,850)
伸率	101.9%	72.2%	106.6%	93.4%
増減	2,674	2,806	9,660	479

( )は直近予想数字

- ◆「シャッター関連製品事業」は、主に物流倉庫向けの重量シャッターが堅調に推移した一方で、材料価格のアップと、重量シャッターの取付経費の増加および販売価格ダウンにより、「増収減益」。
- ◆「建材関連製品事業」は、連結子会社の増加が売上に寄与した一方で、ドアおよびパーティションの売上が減少したことと、ドアの取付経費の増加および販売価格ダウンにより、「増収減益」。
- ◆「サービス事業」は、主にシャッターの修理売上と、法定点検の売上が増加したことにより、「増収増益」。
- ◆「リフォーム事業」は、主にビルリニューアル事業が好調に推移し、「増収増益」。
- ◆「その他事業」は、止水事業が堅調に推移した一方で、太陽光発電システムの売上が低調に推移したことにより、「増収減益」。

# 売上高の用途別セグメント別分析

(単位: 億円)

製品・事業群	用途	合計	工場・倉庫	オフィスビル・公共施設	医療福祉・学校	商業施設	住宅その他
<b>増収額</b>		<b>96.6</b>	<b>22.2</b>	<b>0.4</b>	<b>10.6</b>	<b>16.4</b>	<b>101.0</b>
<b>売上高</b>		<b>1,555.1</b>	<b>370.7</b>	<b>191.3</b>	<b>186.2</b>	<b>103.3</b>	<b>703.6</b>
シャッター関連製品事業計	増収額	4.8	17.7	3.6	3.8	8.3	2.8
	売上高	519.2	227.9	39.5	22.1	41.2	188.5
軽量シャッター群	増収額	1.8	0.8	0.2	0.2	0.7	3.7
	売上高	157.4	60.7	9.0	2.8	11.2	73.7
重量シャッター群	増収額	7.8	17.9	2.2	3.0	6.5	1.6
	売上高	245.9	146.3	23.1	10.5	21.2	44.8
窓シャッター群	増収額	2.9	-	-	-	-	2.9
	売上高	53.9	-	-	-	-	53.9
シャッター関連群	増収額	1.9	0.6	1.2	0.6	1.1	0.4
	売上高	62.0	20.9	7.4	8.8	8.8	16.1
建材関連製品事業計	増収額	66.2	2.9	2.7	11.8	9.1	86.9
	売上高	718.9	74.5	103.8	145.7	32.9	362.0
エクステリア群	増収額	3.3	-	-	-	-	3.3
	売上高	80.5	-	-	-	-	80.5
ドア・パーティション群	増収額	11.4	2.9	2.7	11.8	9.1	9.3
	売上高	468.2	74.5	103.8	145.7	32.9	111.3
その他建材製品群	増収額	74.3	-	-	-	-	74.3
	売上高	170.2	-	-	-	-	170.2
サービス事業計	増収額	19.8	1.9	7.2	3.6	0.8	6.3
	売上高	197.1	61.4	42.7	14.5	26.5	52.0
リフォーム事業計	増収額	2.7	-	-	-	-	2.7
	売上高	80.7	-	-	-	-	80.7
その他事業計	増収額	3.1	0.3	0.5	1.4	0.2	2.3
	売上高	39.2	6.9	5.3	3.9	2.7	20.4

- ◆ 増収額96億6,000万円を用途別で見ると、「工場・倉庫」「住宅その他」向けが牽引。
- ◆ 「工場・倉庫」向けは、主に物流倉庫向けの重量シャッターが好調に推移し、22億2,000万円の「増収」。
- ◆ 「オフィスビル・公共施設」向けは、サービス事業が牽引し、4,000万円の「増収」。
- ◆ 「医療福祉・学校」向けは、シャッター群および学校向けを中心としたドア・パーティション群の減少が影響し、10億6,000万円の「減収」。
- ◆ 「商業施設」向けは、シャッター群およびドア・パーティション群の減少が影響し、16億4,000万円の「減収」。
- ◆ 「住宅その他」向けは、主に住宅向け建築金物を取り扱う子会社「BXカネシン」が寄与し、101億円の「増収」。



# 2019年3月期の見通しについて

---

【事業環境】	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
	実績	伸率	実績	伸率	予想	伸率
新設住宅着工戸数 (万戸)	97.4	105.8%	94.6	97.2%	<b>96.5</b>	102.0%
非住宅着工床面積 (万㎡)	5,133	102.7%	5,331	103.9%	<b>5,320</b>	99.8%
工場 (万㎡)	828	93.6%	919	110.9%	<b>919</b>	100.0%
倉庫 (万㎡)	865	106.9%	989	114.2%	<b>989</b>	100.0%
医療・福祉 (万㎡)	736	106.4%	625	84.9%	<b>625</b>	100.0%
店舗 (万㎡)	561	92.8%	553	98.5%	<b>549</b>	99.3%
事務所 (万㎡)	668	109.2%	668	99.9%	<b>668</b>	100.0%

新設住宅着工床面積と非住宅着工床面積は、(一財)建設経済研究所のデータを参考に試算

【売上構成比】	2017年3月期	2018年3月期
住宅向け	34.6%	38.3%
非住宅向け	65.4%	61.7%

◆ 経済環境は、雇用と所得情勢の改善に支えられ、個人消費が増加基調を維持する中で、2020年に開催予定の東京五輪を控えたインフラ施設などの建築需要の盛り上がりが見込めることから、国内景気は回復基調で推移すると予想。

その一方で、資源価格の上昇など様々な景気の下振れリスクが懸念されているため、先行きは不透明な状況が続くものと予想。

◆ 建築市場について、新設住宅着工戸数は持家および分譲戸建住宅における消費税増税の駆け込み需要の影響により、前期比2.0%増の96万5,000戸を予想。

非住宅着工床面積は、前期比0.2%減の5,320万㎡と、概ね横ばいで推移する見通し。

(単位:百万円)

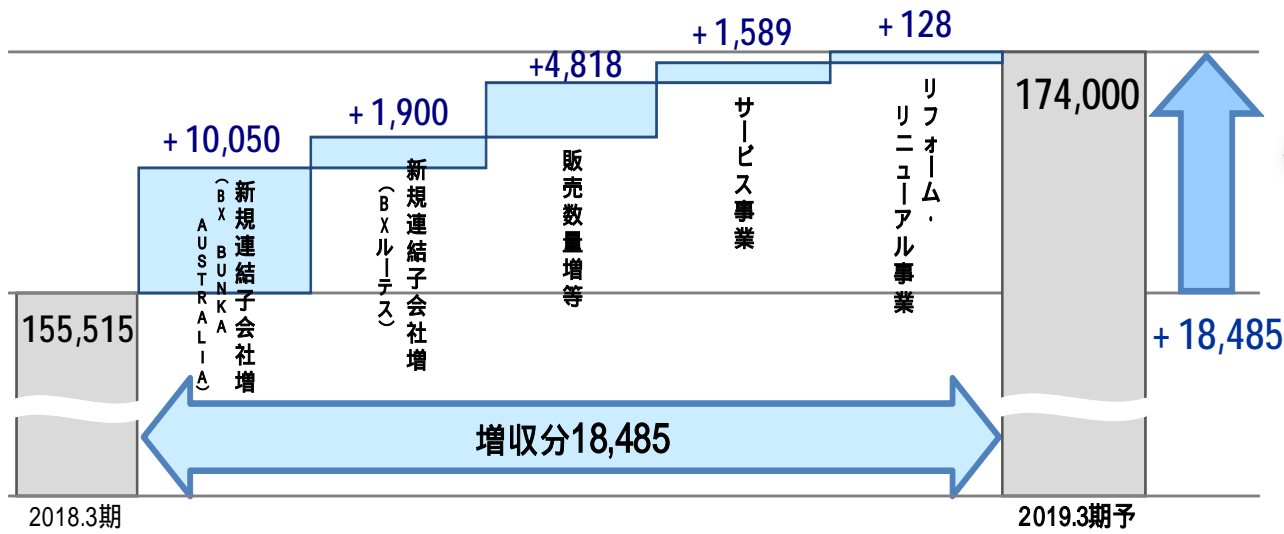
	2018年3月期		2019年3月期			
	通期実績	売上比	通期予想	売上比	前期比	
					伸率	増減
売上高	155,515	100.0%	<b>174,000</b>	100.0%	111.9%	18,485
売上原価	115,447	74.2%	<b>125,300</b>	72.0%	108.5%	9,853
売上総利益	40,068	25.8%	<b>48,700</b>	28.0%	121.5%	8,632
販売費及び一般管理費	33,266	21.4%	<b>40,000</b>	23.0%	120.2%	6,734
営業利益	6,801	4.4%	<b>8,700</b>	5.0%	127.9%	1,899
経常利益	7,681	4.9%	<b>9,500</b>	5.5%	123.7%	1,819
当期純利益	3,195	2.1%	<b>5,800</b>	3.3%	181.5%	2,605
1株当たり配当金	20円		<b>20円</b>		-	-
設備投資額	4,676		<b>3,500</b>		-	1,176
減価償却費	3,397		<b>4,700</b>		-	1,303
期末 従業員 (人)	正社員	4,478	<b>4,760</b>		-	282
	臨時雇用者	1,118	<b>1,160</b>		-	42
	合計	5,596	<b>5,920</b>		-	324

- ◆ 「売上高および営業利益」  
国内景気が回復基調で推移する中、販売数量の増加と新規連結の子会社2社の寄与を見込み、売上高は184億円8,500万円増の1,740億円、営業利益は18億9,900万円増の87億円を予想。
- ◆ 「設備投資額35億円の内訳」  
・設備の合理化・更新他で約18億円  
・子会社の新工場建設と設備の更新他で約9億円  
・システム開発費で約8億円
- ◆ 「1株当たり配当金」  
上期10円、下期10円の通期20円を予定。

# 売上高および営業利益の増減要因

## 【売上高】

(単位:百万円)



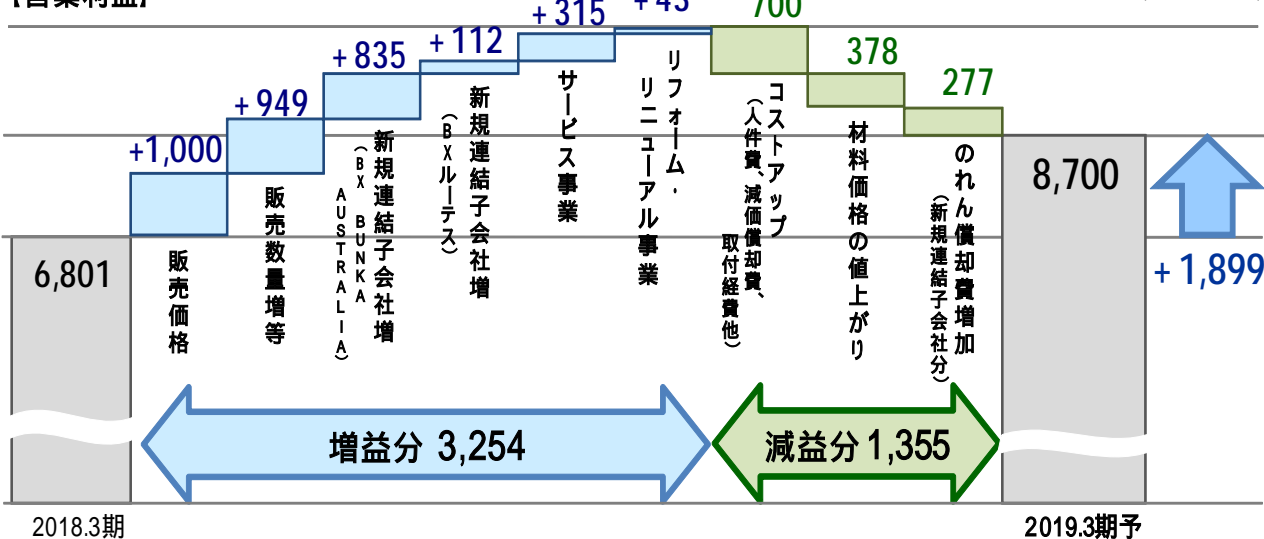
### ◆ 「売上高」の増減要因

「新規連結子会社のBX BUNKA AUSTRALIA およびBXルーテスの増加」、「販売数量の増加」、「サービス事業」、「リフォーム・リニューアル事業」など。

トータルで184億8,500万円の「増収」を見込む。

## 【営業利益】

(単位:百万円)



### ◆ 「営業利益」の増減要因

増益要因は、「販売価格」、「販売数量の増加」、「新規連結子会社の増加」、「サービス事業」など。

減益要因は、コストアップとして、「人件費、減価償却費、取付経費の増加」、「材料価格の値上がり」、「新規連結に伴うのれん償却費の増加」など。

トータルで18億9,900万円の「増益」を見込む。

# セグメント別状況

(単位:百万円)

【売上高】	2018年3月期						2019年3月期					
	上期実績	伸率	増減	通期実績	伸率	増減	上期予想	伸率	増減	通期予想	伸率	増減
シャッター関連事業	23,351	99.7%	77	51,922	100.9%	477	28,000	119.9%	4,649	63,600	122.5%	11,678
建材関連事業	30,770	114.8%	3,961	71,892	110.1%	6,617	32,900	106.9%	2,130	76,500	106.4%	4,608
サービス事業	8,750	109.7%	770	19,711	111.2%	1,984	9,500	108.6%	750	21,300	108.1%	1,589
リフォーム事業	3,979	114.9%	515	8,072	103.5%	274	3,900	98.0%	79	8,200	101.6%	128
その他事業	1,644	111.3%	167	3,916	108.5%	306	1,900	115.5%	256	4,400	112.3%	484
合計	68,497	108.4%	5,337	155,515	106.6%	9,660	76,200	111.2%	7,703	174,000	111.9%	18,485

## 【営業利益】

シャッター関連事業	1,915	65.6%	1,005	5,604	82.6%	1,184	2,250	117.5%	335	7,000	124.9%	1,396
建材関連事業	318	49.0%	331	1,727	94.4%	102	400	125.8%	82	2,000	115.8%	273
サービス事業	715	124.7%	141	2,285	116.7%	326	800	111.8%	85	2,600	113.8%	315
リフォーム事業	69	-	203	207	-	406	80	114.8%	11	250	120.6%	43
その他事業	100	106.3%	6	191	76.8%	57	120	119.5%	20	250	130.7%	59
配賦不能額	1,599	93.4%	114	3,214	96.0%	132	1,650	103.1%	51	3,400	105.8%	186
合計	1,519	63.6%	871	6,801	93.4%	479	2,000	131.7%	481	8,700	127.9%	1,899

## 【受注残高】

シャッター関連事業	21,637	103.7%	779	21,883	116.1%	3,027	24,750	114.4%	3,113	22,700	103.7%	817
建材関連事業	41,991	110.5%	3,993	35,805	105.1%	1,749	43,300	103.1%	1,309	37,000	103.3%	1,195
サービス事業	2,387	112.1%	257	2,070	119.7%	340	2,600	108.9%	213	2,200	106.3%	130
リフォーム事業	1,332	84.3%	249	879	64.8%	478	1,200	90.1%	132	1,000	113.8%	121
その他事業	1,034	114.6%	131	801	97.0%	25	1,150	111.2%	116	900	112.4%	99
合計	68,383	107.7%	4,912	61,440	108.1%	4,613	73,000	106.8%	4,617	63,800	103.8%	2,360

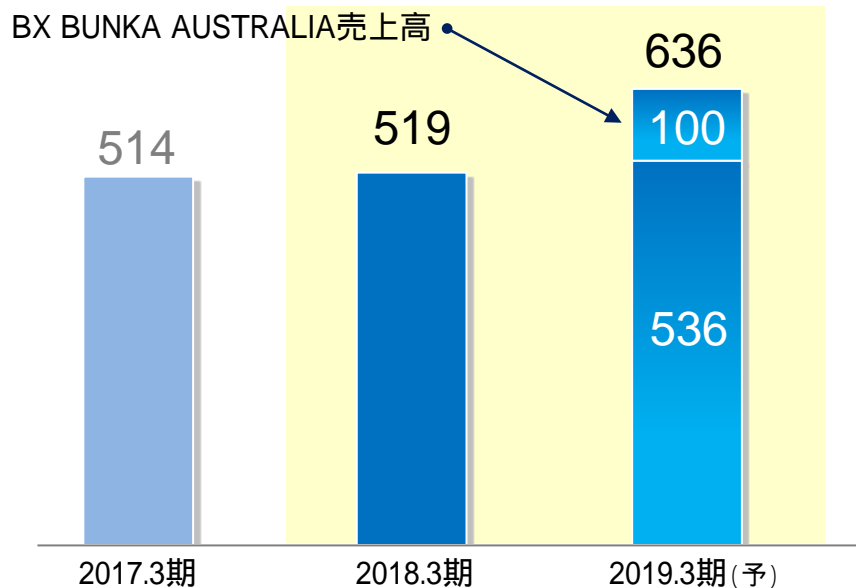
## 【受注高】

シャッター関連事業	26,132	95.7%	1,183	54,950	103.0%	1,620	30,866	118.1%	4,734	64,416	117.2%	9,466
建材関連事業	38,705	111.6%	4,027	73,641	106.4%	4,439	40,394	104.4%	1,689	77,694	105.5%	4,053
サービス事業	9,407	111.1%	943	20,051	112.6%	2,241	10,029	106.6%	622	21,429	106.9%	1,378
リフォーム事業	3,953	102.7%	103	7,594	95.4%	366	4,220	106.7%	267	8,320	109.6%	726
その他事業	1,853	94.6%	105	3,891	96.9%	123	2,248	121.4%	395	4,498	115.6%	607
合計	80,053	105.0%	3,786	160,129	105.1%	7,811	87,759	109.6%	7,706	176,359	110.1%	16,230

# 重点施策の進捗状況について

---

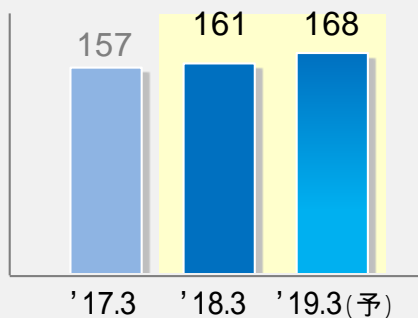
「シャッター事業」売上高(億円)



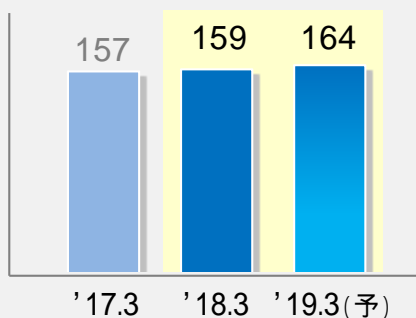
## ◆シャッター事業

- ・18年3月期は、新設住宅着工戸数の減少により窓シャッターが低調に推移した一方で、物流倉庫向けの重量シャッターが牽引した結果、売上高は前期比5億円増の519億円となった。
- ・19年3月期は、重量シャッターの堅調な受注残、新設住宅着工戸数の回復に伴う軽量シャッターと窓シャッターの増加分、さらには新規連結のBX BUNKA AUSTRALIAの増加分100億円を見込み、売上高は前期比117億円増の636億円をめざす。

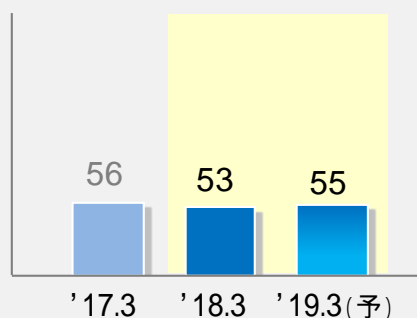
「重量シャッター」売上高



「軽量シャッター」売上高

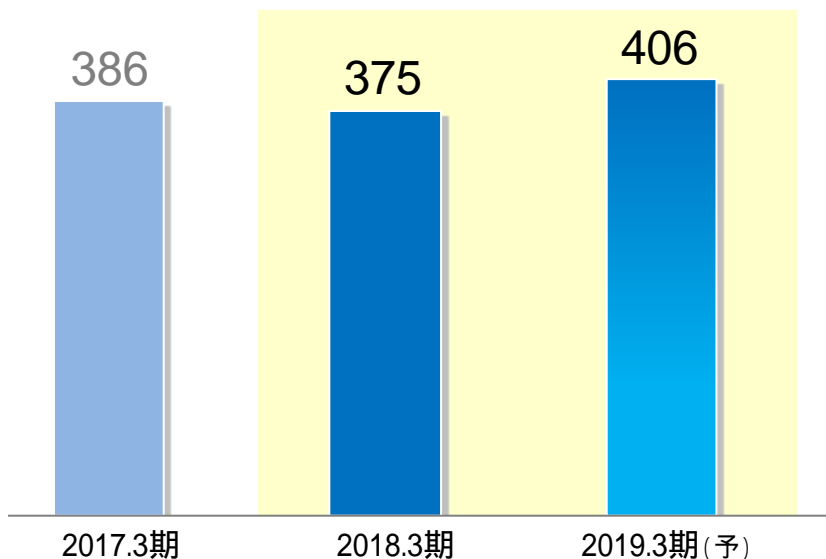


「窓シャッター」売上高

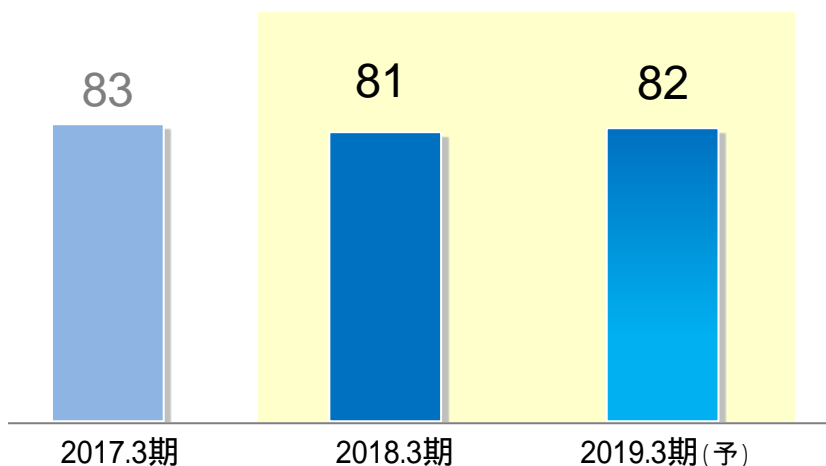


全面刷新したガレージ用軽量シャッター「ポルティエ」

「ドア事業」売上高(億円)



「パーティション事業」売上高(億円)



◆ドア事業

- ・18年3月期は、主に学校など文教施設と店舗向けが減少した結果、売上高は前期比11億円減の375億円となった。
- ・19年3月期は、東京五輪関係の需要を背景とした売上拡大と、新規連結のBXルーテスの寄与を見込み、売上高は前期比31億円増の406億円をめざす。



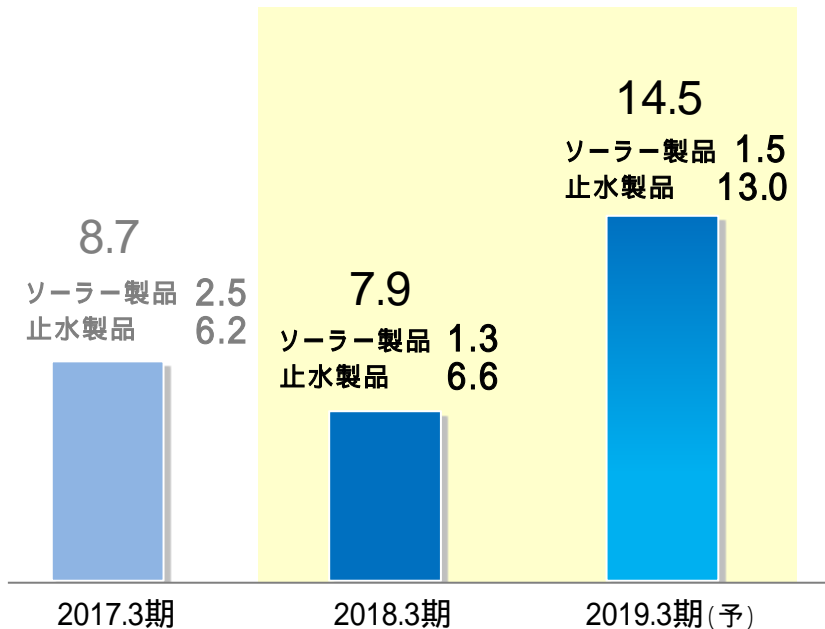
2018年4月2日にグループ入りしたBXルーテス(株)奈良工場の生産ライン

◆パーティション事業

- ・18年3月期は、主に学校など文教施設向けの減少が影響し、売上高は前期比2億円減の81億円となった。
- ・19年3月期は、堅調な工場、物流倉庫、オフィス向けの市場環境を背景に、売上高は82億円を見込む。



「エコ & 防災事業」売上高(億円)



## ◆エコ事業(エネルギー事業) & 防災事業(止水事業)

18年3月期の売上高は、

- ・エネルギー事業は太陽光発電システム市場の縮小を受け、1億2,000万円の減収。
- ・防災事業は止水事業が前期比4,000万円の増収。
- ・その結果、「エコ & 防災事業」全体で前期比8,000万円減の7億9,000万円となった。

19年3月期の売上高は、

- ・エネルギー事業は、前期比2,000万円の増収。
- ・防災事業は、止水製品のバリエーションの拡充と、止水製品の専属プロモーターの設置により、前期比6億4,000万円の増収。
- ・その結果、「エコ & 防災事業」全体で、前期比6億6,000万円増の14億5,000万円をめざす。

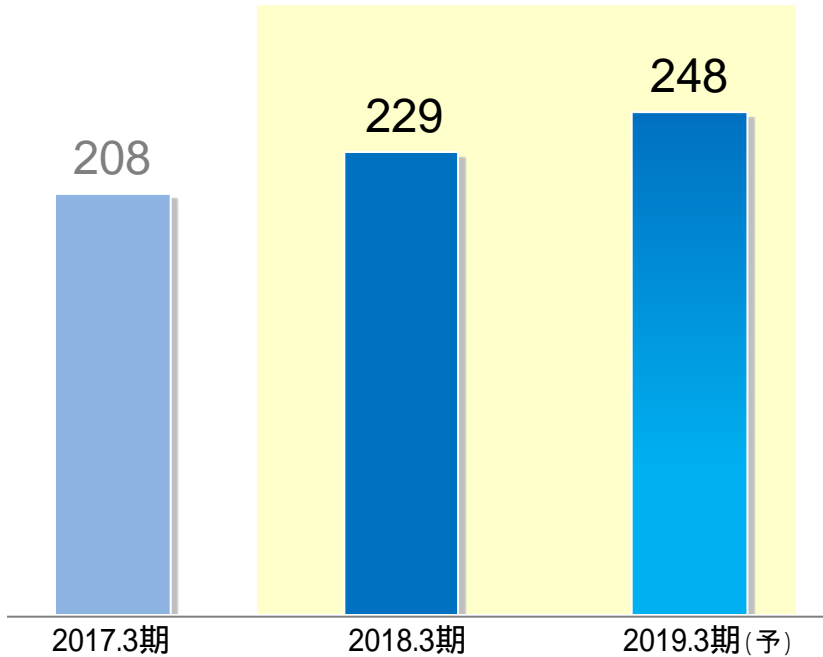


広島市役所に施工した止水製品  
「浮力起伏式止水板」



前期比19%増と売上好調の  
アルミ製止水板「ラクセット」

「メンテナンス事業」売上高(億円)



◆メンテナンス事業

- ・18年3月期は、修理売上と法定点検に伴う点検売上がともに好調に推移し、売上高は前期比21億円増の229億円となった。
- ・19年3月期は、2019年6月の法定点検の本格稼働に向けた猶予期間の最終年度になることから、主力の実務部隊となる文化シャッターサービスとの連携強化により、売上高は前期比19億円増の248億円を見込む。

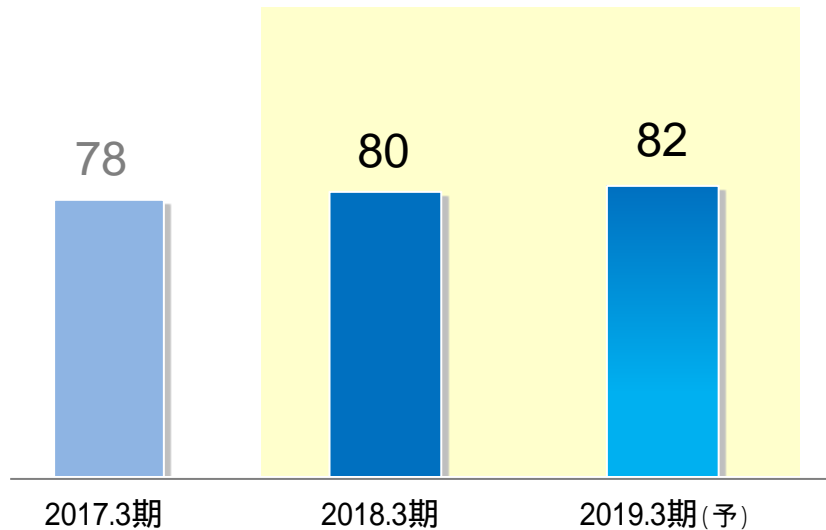


< 社内向け啓蒙ポスター >  
防火設備検査報告制度の推進に向けて作成した社内向け啓蒙ポスター



< 「点検の日」チラシ >  
(一社)日本シャッター・ドア協会では防火設備検査報告制度の施行日を「点検の日」と制定。建築物の所有者等を対象に、防火設備を常に作動できる状態にする“維持保全義務”の意識高揚を図る目的で「点検の日」のチラシを作成

「ロングライフ事業」売上高(億円)



## ◆ロングライフ事業

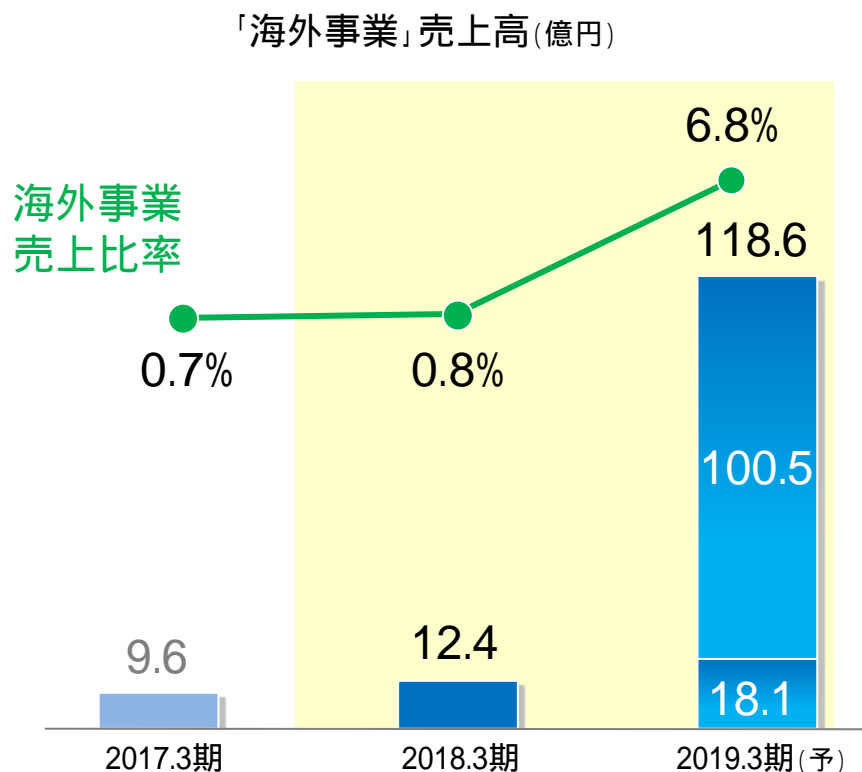
- ・18年3月期は、住宅リフォーム事業の売上は前年横ばいで推移したものの、堅調なビルリニューアル事業が牽引した結果、売上高は前期比2億円増の80億円となった。
- ・19年3月期は、住宅リフォーム事業については、人材育成と店舗統合による営業効率の改善を図り、顧客満足度の向上に繋げる。  
ビルリニューアル事業については、これまで手がけてきた耐震改修のノウハウを活かした元請け対応を強化する。  
この両事業を推し進めることで、売上高は前期比2億円増の82億円をめざす。

## &lt; オフィスビル改修の施工事例 &gt;



スチールパーティション施工事例

不燃シート製の防煙垂れ壁  
「ケムストップ」施工事例



◆海外事業

- ・18年3月期は、東南アジアを中心とした事業展開が堅調に推移し、売上高は前期比2億8,000万円増の12億4,000万円となった。
- ・19年3月期は、継続して東南アジア物件の対応を強化するために、今年4月にベトナムに開設したASEAN統括事務所とBX BUNKA VIETNAMとの連携強化を図る。また、BX BUNKA VIETNAMとEurowindowとの協業により、ベトナム国内のローカル物件の受注拡大をめざす。さらに、子会社化したオーストラリアのガレージドアメーカーBX BUNKA AUSTRALIAの増加分100億5,000万円を見込み、売上高は前期比106億2,000万円増の118億6,000万円をめざす。

<オーストラリア市場の展望>

BX BUNKA AUSTRALIAの事業基盤強化に注力するとともに、ガレージドア市場のトップシェアを基盤にリノベーション市場を開拓することで、さらなる売上拡大を図る。

# トピックス

---





BX BUNKA AUSTRALIA (Steel-Line社工場)



BXルーテス株式会社

## 注力事業である『海外事業』の強化

2018年3月1日付けで、オーストラリアにおけるガレージドア市場において、トップシェアを誇るSteel-Line社を有するArcPac Garage Doors(完全持株会社 / 現BX BUNKA AUSTRALIA)を子会社化。

今後は、ベトナムを中心とした東南アジアに加え、オーストラリア市場への進出を機にグローバル化を進めることで、新たな事業領域の拡大と商品拡充、顧客基盤の強化、収益モデルの多様化を図る。

## 基幹事業である『ドア事業』の強化

2018年4月2日付けで、創業以来、50年以上にわたって主にマンションやホテル向けスチールドアの製造・販売を行ってきたルーテス株式会社(現BXルーテス株式会社)を子会社化。

高い技術力と実績のある同社がグループ入りしたことで、ドアのバリエーション拡充と安定したスチールドアの供給・受注体制の強化を図る。

今後も新しい価値の創出と新しいビジネスモデルの構築を進める成長戦略を推進していくために、事業投資を実行する。

## 新商品

住宅用ガレージシャッターのハイグレードタイプ2機種を全面リニューアル

5月発売開始



電動静音アルミシャッター  
「御前様」

5月発売開始



フラットガレージシャッター  
「ポルティエ」

意匠性が高く錆びにくい  
ステンレス製の止水ドア

5月発売開始



止水ドア  
「アクアード・両開きステンレスタイプ」

### <特徴>

- ・上昇スピードが約2倍にアップ（「御前様」のみ）
- ・安全性が高い「非接触多光軸センサ」を標準装備
- ・乗車したまま自動開閉できる車載用リモコン「セレクルーズ」を標準装備

### <特徴>

- ・軽くて簡単に操作できる止水ドア
- ・浸水高さ0.5mまでの低水位から3mの高水位まで高い止水性能を発揮

## 參考資料

---



経営理念	「私たちは、常にお客様の立場に立って行動します」 「私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します」 「私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します」
概 要	文化シャッター株式会社及び連結子会社24社(2018年5月現在)
事 業	シャッター事業、ビル建材事業、住宅建材事業、リフォーム事業、 リニューアル事業、保守・点検・サービス事業、他
拠 点	334営業拠点 130サービス拠点 29工場(2018年5月現在)
従業員数	4,478名(2018年3月末現在)

## 【文化シャッター株式会社(単体)】

代表者	代表取締役社長 執行役員社長 潮崎 敏彦
設 立	1955年(昭和30年)4月18日
資本金	15,051百万円
本 社	東京都文京区西片1-17-3

## 文化シャッター株式会社

### シャッター関連製品事業

「電動開閉機」製造・販売

**BX新生精機(株)**

「オーニング」製造・販売

**BXテンパル(株)**

「シャッター」製造・販売

**BX沖縄文化シャッター(株)**

「シャッター」販売

**文化シャッター秋田販売(株)**

**文化シャッター高岡販売(株)**

( 3 )

### 建材関連製品事業

「ドア」「パーティション」製造

**BX文化パネル(株)**

**BX中央工業(株)**( 1 )

「ドア」製造

**BXケンセイ(株)**

**BX鐵矢(株)**

**BX東北鐵矢(株)**

**BX朝日建材(株)**

**BXルーテス(株)**

「建築金物」製造・販売

**BXカネシン(株)**

「ドア」「スライディングウォール」製造・販売

**BXティアール(株)**

「ステンレス建材」製造・販売

**BX紅雲(株)**

「建築材料」製造・販売

**BX西山鉄網(株)**

「再生複合材」製造・販売

**(株)エコウッド** ( 3 )

### < 海外事業展開 >

「シャッター」「ドア」「オーニング」製造・販売

**BX BUNKA VIETNAM Co.,Ltd.**

「樹脂サッシ」「アルミサッシ」製造・販売

**Eurowindow JSC** ( 2 )

(ベトナム)

「ガレージドア」製造・販売・施工・アフターメンテナンス

**BX BUNKA AUSTRALIA PTY LTD**

**Steel-Line Garage Doors Australia**

**Steel-Line Installations Australia**

**Steel-Line Garage Doors(WA)**

**Dynamic Door Service**

(オーストラリア)

~ 海外企業との提携 ~

**Entrematic Belgium NV**

1999年より高速シートシャッター

「エア・キーパー大間迅」発売

### < その他 >

「ビル用サッシ他」製造・販売

**不二サッシ(株)グループ**

( 2 )

### サービス事業

「シャッター・ドア等の修理・点検」

**文化シャッターサービス(株)**

### その他事業

「注文家具」製造・販売

**BX文化工芸(株)**

「損害保険代理業」

**BXあいわ(株)**

「建築構造設計」

**BX TOSHO(株)**

### リフォーム事業

「住宅リフォームの設計・施工・請負」

**BXゆとりフォーム(株)**

- 1 非連結子会社で持分法非適用会社
- 2 関連会社で持分法適用会社
- 3 関連会社で持分法非適用会社

# 連結貸借対照表

(単位: 百万円、%)

	2017年3月期		2018年3月期		増	減 前期末比
		構成比		構成比		
<b>流動資産</b>	<b>81,542</b>	<b>58.4</b>	<b>86,311</b>	<b>56.4</b>	<b>4,769</b>	<b>105.8</b>
現金・預金	22,491	16.1	20,017	13.1	2,474	89.0
受取手形・売掛金	42,145	30.2	45,684	29.9	3,539	108.4
たな卸資産	13,028	9.3	16,537	10.8	3,509	126.9
その他	3,878	2.8	4,073	2.7	195	105.0
<b>固定資産</b>	<b>58,118</b>	<b>41.6</b>	<b>66,662</b>	<b>43.6</b>	<b>8,544</b>	<b>114.7</b>
土地	11,540	8.3	11,540	7.5	0	100.0
投資有価証券	15,723	11.3	18,642	12.2	2,919	118.6
その他の投資・資産	2,544	1.8	2,559	1.7	15	100.6
その他	28,311	20.3	33,921	22.2	5,610	119.8
<b>資産合計</b>	<b>139,660</b>	<b>100.0</b>	<b>152,973</b>	<b>100.0</b>	<b>13,313</b>	<b>109.5</b>
<b>流動負債</b>	<b>46,975</b>	<b>33.6</b>	<b>58,582</b>	<b>38.3</b>	<b>11,607</b>	<b>124.7</b>
支払手形・買掛金	29,844	21.4	32,143	21.0	2,299	107.7
短期借入金	3,200	2.3	11,700	7.6	8,500	365.6
その他	13,931	10.0	14,739	9.6	808	105.8
<b>固定負債</b>	<b>25,755</b>	<b>18.4</b>	<b>24,195</b>	<b>15.8</b>	<b>1,560</b>	<b>93.9</b>
長期借入金	5,550	4.0	3,350	2.2	2,200	60.4
退職給付に係る負債	18,233	13.1	18,351	12.0	118	100.6
その他	1,972	1.4	2,494	1.6	522	126.5
<b>負債合計</b>	<b>72,731</b>	<b>52.1</b>	<b>82,777</b>	<b>54.1</b>	<b>10,046</b>	<b>113.8</b>
<b>純資産合計</b>	<b>66,929</b>	<b>47.9</b>	<b>70,195</b>	<b>45.9</b>	<b>3,266</b>	<b>104.9</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>139,660</b>	<b>100.0</b>	<b>152,973</b>	<b>100.0</b>	<b>13,313</b>	<b>109.5</b>

1株当たり株主資本

933円54銭

979円11銭

期末株価

860円

1,033円

PBR(株価純資産倍率)

0.92

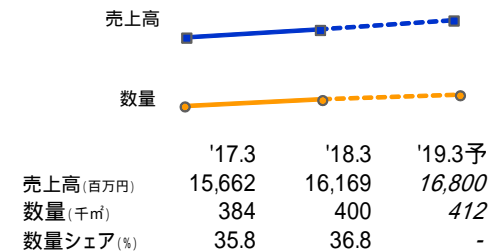
0.95

# 連結キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	増減
<b>1. 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>7,979</b>	<b>5,990</b>	<b>1,989</b>
税金等調整前当期純利益	8,734	5,557	3,177
減価償却費	2,351	2,708	357
売上債権の増減額( は増加)	1,378	2,307	3,685
仕入債務の増減額( は減少)	365	1,575	1,940
たな卸資産の増減額( は増加)	483	2,431	2,914
法人税等の支払額	3,977	2,558	1,419
その他	625	3,446	4,071
<b>2. 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>9,435</b>	<b>12,782</b>	<b>3,347</b>
投資有価証券の取得による支出	104	519	415
有形固定資産の売却による収入	12	148	136
有形固定資産の取得による支出	6,193	3,704	2,489
無形固定資産の取得による支出	1,111	659	452
その他	2,039	8,048	6,009
<b>3. 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,825</b>	<b>4,311</b>	<b>2,486</b>
短期借入金の純増減額( は減少)	-	8,500	8,500
長期借入れによる収入	5,000	-	5,000
長期借入金の返済による支出	1,250	2,200	950
配当金の支払額	1,434	1,434	0
その他	491	555	64
<b>4. 現金及び現金同等物の増減額( は減少)</b>	<b>338</b>	<b>2,482</b>	<b>2,820</b>
<b>5. 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>20,522</b>	<b>20,860</b>	<b>338</b>
<b>6. 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>20,860</b>	<b>18,377</b>	<b>2,483</b>

## < 重量シャッター >

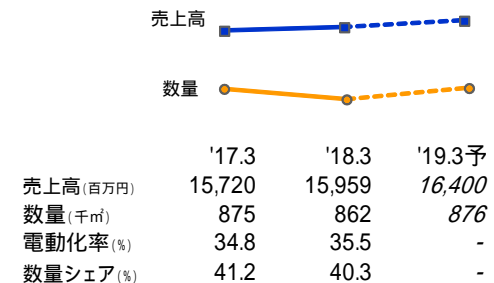


数量シェアは、(社)日本シャッター・ドア協会の生産数量をもとに算出



- ◆ 18.3期の売上高は、前期比3.2%増。
- ◆ 19.3期は、引き続き大型物流倉庫向けを中心に売上高は前期比3.9%増の168億円を計画。

## < 軽量シャッター >

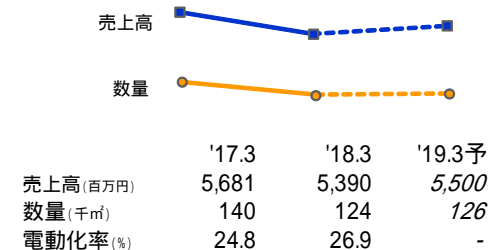


数量シェアは、(社)日本シャッター・ドア協会の生産数量をもとに算出



- ◆ 18.3期の売上高は、前期比1.5%増。
- ◆ 19.3期は、住宅および工場・倉庫向けを中心に売上高は前期比2.8%増の164億円を計画。

## < 窓シャッター >



- ◆ 18.3期の売上高は、前期比5.1%減。
- ◆ 19.3期の売上高は、前期比2.0%増の55億円を計画。

## <ドア>



'17.3 '18.3 '19.3予  
売上高(百万円) 36,267 35,376 36,600



- ◆ 18.3期の売上高は、前期比2.5%減。
- ◆ 19.3期の売上高は、前期比3.5%増の366億円を計画。

## <パーティション>



'17.3 '18.3 '19.3予  
売上高(百万円) 8,276 8,159 8,200



- ◆ 18.3期の売上高は、前期比1.4%減。
- ◆ 19.3期の売上高は、前期比0.5%増の82億円を計画。

## <エクステリア>



'17.3 '18.3 '19.3予  
売上高(百万円) 7,732 8,058 8,400

横引雨戸を含めた金額で表示しています。



- ◆ 18.3期の売上高は、前期比4.2%増。
- ◆ 19.3期の売上高は、前期比4.2%増の84億円を計画。

## 問い合わせ先

文化シャッター株式会社 経営企画部広報室 曽根、小林

TEL03-5844-7150 FAX03-5844-7141

E-mail [bxinfo@mail.bunka-s.co.jp](mailto:bxinfo@mail.bunka-s.co.jp)

<http://www.bunka-s.co.jp/>